

所員

専任教員

後藤 静夫 GOTOU Shizuo (2014年3月退職)

役職：所長

専門：芸能史・文化史

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

山田 智恵子 YAMADA Chieko

役職：教授

専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

田井 竜一 TAI Ryuichi (2013年9月退職)

役職：准教授

専門：民族音楽学・日本音楽芸能論

田鍬 智志 TAKUWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民族芸能

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：准教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

客員教授

時田 アリソン TOKITA Alison (2013年4月新

任、2014年3月任期満了)

専門：日本の語り物芸能

非常勤講師

上野 正章 UENO Masaaki(2014年3月任期満了)

担当：特別研究員

専門：音楽学

大西 秀紀 ONISHI Hidenori

担当：特別研究員

専門：近代芸能史

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員

専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

前島 美保 MAESHIMA Miho(2014年3月任期満了)

担当：特別研究員

専門：日本音楽史

三島 暁子 MISHIMA Akiko(2014年3月任期満了)

担当：特別研究員

専門：日本音楽史

非常勤嘱託員

齊藤 尚 SAITOO Hisashi

担当：学芸員・司書

高久 直子 TAKAKU Naoko

担当：司書

お知らせ

平成 26(2014)年 4 月、新任所員として、次の
5 名が着任しました。

時田 アリソン (所長)

たけのうち
武内 恵美子 (准教授)

徳丸 吉彦 (客員教授)

梶丸 岳 (非常勤講師)

竹内 直 (非常勤講師)

客員研究員

丹羽 幸江 NIWA Yukie

受入期間：2013年11月から2015年3月31
日まで (予定)

所属：日本学術振興会特別研究員 (RPD)

助成：国際交流基金日本研究フェローシップ

研究課題：祝詞の音楽的研究

受入教員：藤田隆則

共同研究員

計 36 名 (所員を除く)。研究テーマ・氏名・所属先
等は「活動報告 1」に記した。

委託研究

委託者：大西秀紀

委託テーマ：日本伝統音楽研究センターが寄贈を受けた義太夫節SPレコードコレクション

内容：2011年7月に当センターが寄贈を受けた義太夫節を中心とするSPレコード約1290枚の内容状態調査およびそのデータベース化を委託した。

展 観

会場：新研究棟 7階 展観スペース

内容：(1) 2012年8月～2013年6月

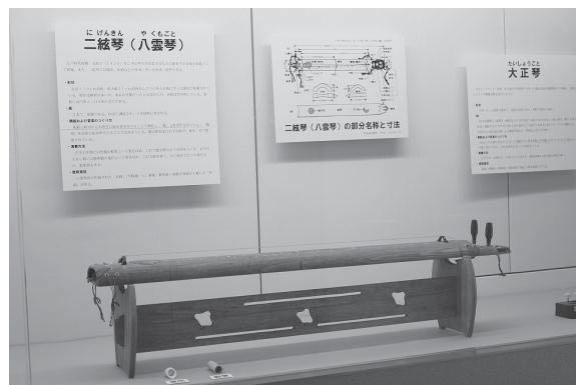
「琵琶と三味線—センター収蔵資料より—」

構成：齊藤尚（展示物に関する補足解説・音源データをWi-Fi接続により携帯端末向けに提供）

(2) 2013年7月～9月

「コト・琴・箏—日本の長胴絃楽器—」

構成：齊藤尚

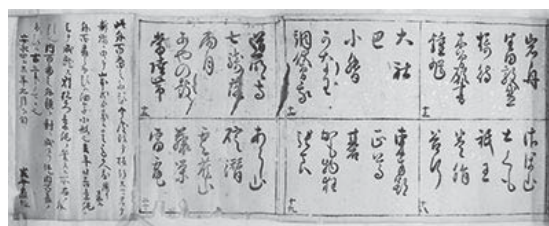
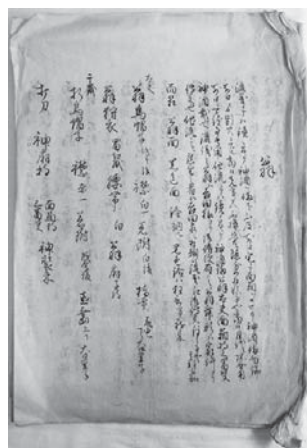


(3) 2013年10月～2014年2月

「京観世岩井家の歴史」

構成：大谷節子・藤田隆則

趣旨：京都において観世流の謡を伝えてきた主要な家のひとつに岩井家がありました。明治時代、能役者としての岩井の芸の系統は、大西家や大江家等の弟子家に引き継がれましたが、その後も京都の謡の「五軒家」のひとつである岩井の謡は、素謡を楽しむたくさんの素人を生み出し、昭和の中頃までは、「岩井派／岩井流」をなると素人の謡い手も存在していました。いわゆる「京観世」の謡の様式や、近代の京都における謡の普及を考える際、岩井家、そしてその弟子たちの活動を辿っていくことの意味は決して少なくありません。



この度、日本伝統音楽研究センターは、岩井家後裔の岩井弘氏（本学美術学部名誉教授）より、岩井家に現存する文書や伝書類の寄贈を受けました。寄贈いただいた資料の中には、謡の指南家としての岩井、宗家との取次の家としての岩井、そして能楽の技法そのものの伝承者であった岩井、謡の理論家であった岩井など、江戸中期後期の岩井家の幅広い活動を示す資料が含まれています。

日本伝統音楽研究センター「京観世の記録化」プロジェクト研究会では、代表的な資料をテーマごとに分け、解題を付して展観を行います。展観を通じて、岩井氏のご好意に感謝の気持ちを表したいと思えます。実際に展示されている資料の一部WEBにて公開しております。ぜひご覧ください。

出版物 一書籍一

『日本伝統音楽研究』第10号

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究紀要
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、
2013年6月30日、A4横組・縦組 118pp
内容：〈論文〉前島美保「歌舞伎囃子方の東西交流—
宝暦期から天明期にかけて—」

〈資料紹介〉加納マリ・竹内有一「伝音アーカイブズ
『胡弓に関する資料年表—16～17世紀—』」

〈資料〉後藤静夫「文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る その3 豊竹十九大夫

〈記録〉ナタリヤ・クロブコヴァ「講演 ロシアにおける日本音楽への関心—日本音楽はロシアでどのように受け入れられているか—

〈所長対談〉後藤静夫「肥田皓三先生に聞く—島之内 界限、思い出すこと—

〈彙報〉活動記録 1 プロジェクト研究・共同研究、活動記録 2 特別研究員、活動記録 3 専任教員

デジタルアーカイブ

日本伝統音楽研究センターwebサイトにおいて、収蔵資料検索データベース、SP音源試聴コーナー、伝音アーカイブズ、プロジェクト・共同研究の報告、催事案内等を公開し、随時更新を行っている。2013年度末現在、「伝音アーカイブズ」の内容は、以下の通りである（太字は2013年度新設）。

コンテンツ内容	編著者
音楽文化新聞 記事索引	上野正章
祇園囃子アーカイブズ	田井竜一
桂地蔵前六斎念仏—その特質と伝承をめぐって—	田井竜一
画像資料にさく「祇園囃子」	田井竜一
源氏物語の音楽—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲！？—	田鍛智志
平家物語の音楽その1—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲！？—	田鍛智志
平家物語の音楽その2—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲！？—	田鍛智志
胡弓に関する史料年表—16～17世紀—	竹内主催 共同研究
町田嘉章草稿「常磐津演奏家芸歴列伝（仮題）」—解題と影印—	竹内有一
「正本を読む会」報告	竹内有一
箏曲・地歌の歌本	竹内有一
現代邦楽放送年表	長廣比登志
能の地拍子研究文献目録—単行本の部—	藤田隆則
『観世・大観世』目次一覧（大正12年1月—昭和19年3月）	藤田隆則
謡伝書の具体的理解と体系的把握へ向けた基礎作業	藤田隆則
日本伝統音楽研究の真髄に触れる—ゲストと所長による対談集—	所長、学術委員会

第36回公開講座

「西浦田楽—伝承の現在と未来—」

藤田隆則（企画・構成・司会）

平成25年度第1回公開講座

日時：2013年11月9日（土）14時～18時

会場：京都芸術センターフリースペース（京都市中京区室町通蛸薬師下る）、参加費：1,000円

内容：（1）講演 細馬宏通（滋賀県立大学）「西浦田楽の時空間と身体」、菅原和孝（京都大学）「西浦田楽の伝承及び身体技法の変容」



（2）祭の奉納 能衆（西浦田楽保存会）

〈地能〉庭ならし、御子舞、麦つき・田うち、水口、高足もどき、鶴の舞、出体童子、鳥追い、早乙女、田楽舞（はね能）しんたい、くらま、猩々、弁慶

司会補助：野町菜々子（本学音楽研究科修士課程 日本音楽研究専攻）



趣旨：浜松市天竜区水窪町西浦に伝わる「観音の祭り（通称：西浦田楽）」を取り上げます。西浦田楽は、毎年旧正月18日に、神楽、田楽、田遊び、猿楽能等が

夜を徹して次々と奉納される民俗芸能です。芸能史的に大きな価値を持っており、重要無形民俗文化財の指定を受けています。



祭を遂行する「能衆（のうしゅう）」と呼ばれるメンバーは、村の人口が減少していく中でも、日頃から練習を重ねる等、伝承への努力を惜みず精進潔斎して祭にのぞみます。本講座では、能衆らを招いて「観音の祭り」を部分的に再現します。祭の調査に長年かかわってきた研究者の講演を織り込みつつ、日本における祭礼や伝統芸能の伝承の未来を考えます。

第 37 回公開講座

「浪曲の音楽性について考える」

時田アリソン（企画・構成）

平成 25 年度第 2 回公開講座

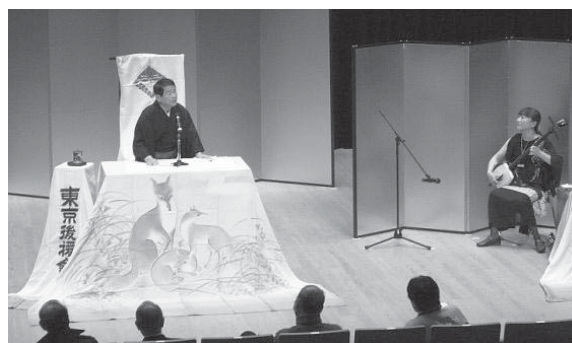
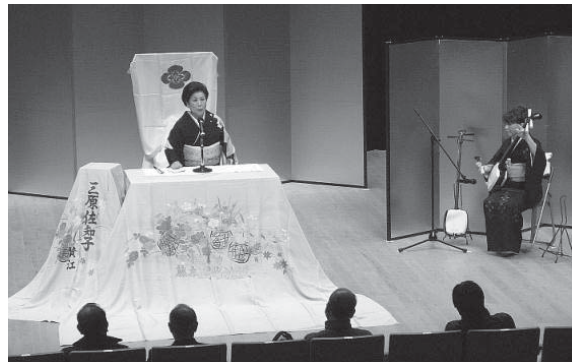
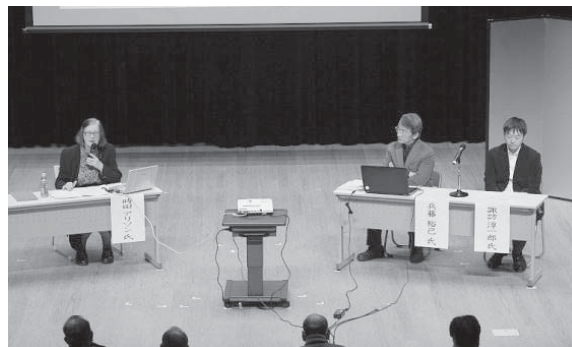
日時：2014 年 1 月 25 日（土）14 時～17 時

会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール、

参加費：1,000 円

内容：〈学術講演〉時田アリソン、兵藤裕己（学習院大学教授）、諏訪淳一郎（弘前大学准教授）

〈口演〉浪曲師：三原佐知子・曲師：虹友美／浪曲師：松浦四郎若・曲師：沢村さくら／司会・解説：芦川淳平（浪曲作家）



浪曲師：東家浦太郎・曲師：北川純子／司会・解説：北川純子（大阪教育大学教授）

趣旨：明治期に生まれて、20 世紀前半に一世を風靡した浪曲（浪花節）の人気の秘密とは何だったのか。戦後、浪曲の流れを汲む演歌にその場所を譲ったが、今も大阪や東京で新しい世代の浪曲師（語り手）と曲師（三味線弾き）が育っており、新作も作られている。その人気は未だに絶えたのではないといえよう。

この公開講座は、日本伝統音楽研究センターの共同研究「浪花節の音楽様式を見極める」（研究代表者：時

田アリソン)の一年間の成果を発表するものである。共同研究員の様々な視点による研究発表の中から、今回は主に浪曲の音楽面にスポットをあて、演奏家による実演を交えて、その音楽性について考える。

でんおん連続講座

平成 25 年度 でんおん連続講座 A

「義太夫節の音楽としてのしくみを理解する」

講師：山田智恵子

- (1) 2013年5月8日 「仮名手本忠臣蔵」初演と現行文楽テキストの成立過程
ゲスト講師：神津武男（早稲田大学高等研究所招聘研究員）
- (2) 5月15日 「大序」のテキスト音読と音楽 その1
- (3) 5月22日 「大序」のテキスト音読と音楽 その2
- (4) 5月29日 「道行旅路の嫁入り」のテキスト音読と音楽 その1
- (5) 6月5日 「道行旅路の嫁入り」のテキスト音読と音楽 その2
- (6) 6月12日 文楽「道行旅路の嫁入り」を見る
- (7) 6月19日 「九段目山科閑居の段」のテキスト音読と音楽 その1
- (8) 6月26日 「九段目山科閑居の段」のテキスト音読と音楽 その2
- (9) 7月3日 「九段目山科閑居の段」のテキスト音読と音楽 その3
- (10) 7月10日 「九段目山科閑居の段」のテキスト音読と音楽 その4
ゲスト講師：竹本友香・豊澤雛文



全10回、13時～14時30分

会場：合同研究室1、受講料：5000円

趣旨：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年まで多くの人々にとって身近な音楽でした。しかし現在は、耳慣れない、長ったらしい、何をいっているかわからない、共感するにはほど遠いと感じる人が多くなっているのではないのでしょうか。

そこでこの講義では、ことば（詞章）と関係に着目し、音楽としての義太夫節にスポットを当てます。今年度は「仮名手本忠臣蔵」を取り上げ、詞章を音読した後、実際の演奏を聴いていきます。

七五調の言葉のリズムや、発音の実際と義太夫節の音楽表現を体感することで、一つひとつのことばが、いかに巧みに音の世界で表現されているかを理解し、文楽を耳からも楽しめるようになることを目指します。

平成 25 年度 でんおん連続講座 B

「丸本で読む義太夫節」 講師：後藤静夫



- (1) 2013年5月8日 「仮名手本忠臣蔵」と勘平腹切について
- (2) 5月15日 丸本を読む 1
- (3) 5月22日 丸本を読む 2
- (4) 5月29日 丸本を読む 3
- (5) 6月5日 丸本を読む 4
- (6) 6月12日 丸本を読む 5
- (7) 6月19日 丸本を読む 6
- (8) 6月26日 丸本を読む 7
- (9) 7月3日 丸本を読む 8
- (10) 7月10日 DVD「勘平腹切りの段」を見る
全10回、14時40分～16時10分
会場：合同研究室1、受講料：5000円
趣旨：人形浄瑠璃文楽で演奏される「義太夫節」は、

劇場音楽としてすばらしい表現力を発揮し、現代の鑑賞者を感動させてくれます。

その感動は、台本である浄瑠璃作品が優れている事が前提になっています。「義太夫節」の台本は「丸本」と呼ばれ、読み物としても広く流通・享受されてきました。木版刷りの丸本は一見難しそうですが、少し慣れば意外と読みやすいものです。スケールの大きな、しっかりとしたストーリーが、独特で洗練された文体で表された作品は、読み進んでいくと引き込まれ、次の展開を知りたくなっていく楽しみが味わえると思います。

文楽や義太夫節の概略や構造を学んだ上で、自らの失態のため、主君仇討ちの仲間にも加われぬ上、舅殺しの罪までおかしたと思い込み、切腹して果てる勘平の絶望を描く「仮名手本忠臣蔵・六段目勘平腹切りの段」を原文で読んでみましょう。活字翻刻を参照しながら、変体仮名の読み方も学んでみましょう。

平成 25 年度 でんおん連続講座 C

「能の音楽の原型をさぐる—他のジャンルとの比較や演出資料を通じて—」 講師：藤田隆則

- (1) 2013年10月9日 登場楽 (その1)
- (2) 10月16日 登場楽 (その2)
- (3) 10月23日 謡 (その1)
- (4) 10月30日 謡 (その2)
- (5) 11月6日 謡 (その3)
- (6) 11月13日 謡 (その4)
- (7) 11月20日 舞 (その1)
- (8) 11月27日 舞 (その2)

全8回、10時40分～12時10分

会場：合同研究室1、受講料：5000円

趣旨：室町時代に成立した能は、現在でもよく演じられています。2時間にもおよぶ力のこもる演技をより面白く受けとめるためには、謡のテキスト内容の理解にくわえ、音楽や舞の構造を熟知しておくことも必要です。能の鑑賞歴・稽古歴は長くてもなかったという実感が得られないと感じておられる方、ぜひ受講してください。今期は、登場楽、謡、舞などの原形を実践的になぞりつつ、把握していくことを試みます。

平成 25 年度 でんおん連続講座 D

「謡を楽しむ文化—京観世とその周辺」

講師：藤田隆則



- (1) 2013年10月9日 大谷節子「岩井七郎右衛門家と岩井家蔵書」
- (2) 10月16日 上野正章「日出新聞に記録された京都の謡会」
- (3) 10月23日 宮本圭造「謡講—謡がつなぐ人々の輪」
- (4) 10月30日 中尾薫「江戸観世大夫元章の京都弟子家への視線」
- (5) 11月6日 日出新聞を読む／長田あかね「禁裏・仙洞能における京観世の謡」
- (6) 11月13日 五島邦治「室町時代京都の能と謡—木内弥二郎を中心に」
- (7) 11月20日 丹羽幸江・高橋葉子「常磐会本と京観世の録音」
- (8) 11月27日 高桑いづみ「実践としての謡—音楽としてのおもしろさはどこにあるのか」

全8回、13時～14時30分

会場：合同研究室1、受講料：5000円

趣旨：現代の謡は、複雑な技法と高い精神性をもった芸術的な音曲ですが、その音楽的骨組みはじつは簡素で合理的です。したがって謡には、初歩の手ほどきを受けただけで自由に楽しめる手軽さが、本来備わっていたのです。手軽さゆえに謡は、娯楽や儀礼に用いられ、季節の節目をいろいろするのに必要不可欠な音曲とされていました。

この講座では、謡が身近な場所で生まれ、必要とされていた近代までの様子を、残された資料から明らかにしたいと思います。毎回、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターのプロジェクト研究「京観世の

記録化」のメンバーが、関連する話題を提供します。音曲としての謡に興味を持っておられる方、その歴史的背景に関心をお持ちの方、どうぞご参加下さい。

伝音セミナー

平成 25 年度伝音セミナー

「日本の希少音楽資源にふれる」

趣旨：それぞれのテーマに沿って、SP レコード等に残された迫力ある演奏を紹介し、解説を加えながら、これからの伝統音楽の方向を探っていきます。日本の伝統音楽等の市民講座に参加するのは初めてという方にも気軽に受講いただける無料セミナーですので、多数の御参加をお待ちしております。

日時：2013 年 5 月～2014 年 3 月の全 9 回、

14 時 40 分～16 時 10 分

会場：合同研究室 1、参加費：無料

(各回の担当者・趣旨等は以下の通り)

◇第 1 回 5 月 9 日 大西秀紀

「演奏家の個性」

SP レコードに記録された演奏を聴くと、現在私達が耳にするものよりもずっと個性的で、時には戸惑いすら感じる場合があります。一般に伝統芸能は、元の姿かたちが厳格に今日まで伝わっていると思われがちですが、実はこの 100 年ぐらいの間にもさまざまに変化してきているようです。今年度第 1 回の伝音セミナーは、SP レコードを通じて演奏家のさまざまな個性をながめて見たいと思います。

◇第 2 回 6 月 6 日 藤田隆則

「宝生流の謡をきく」

能のシテ方には五つの流派があります。そのうち宝生流は、明治大正昭和と、何人もの謡の名手を輩出してきました。宝生流の謡は、他流と比較して、どのような特徴をもっているのでしょうか。謡本の記号などにも反映されている、宝生流の特徴を整理しながら、明治から昭和にかけての名手の謡を SP レコードやソノシート、LP レコードで、聞いていきます。

◇第 3 回 7 月 5 日 三島暁子

「お伊勢参りとその周辺」

「お伊勢さん」と親しまれている伊勢神宮は、20 年に一度、社殿を新しく作り替えることでも有名です。本

年はちょうど第 62 回の遷御（大御神が旧殿から新殿へお遷りになる）の年にあたり、例年にも増して参詣者も多いことでしょう。そこで、お伊勢参りの文化と、「伊勢音頭」をはじめとした伊勢信仰に関わる音について取り上げたいと思います。

◇第 4 回 9 月 5 日 前島美保

「上方歌舞伎の囃子の世界」

上方関西と江戸東京の歌舞伎の囃子は、楽器・音色・演出等様々な点で違いがあったことが従来指摘されています。昨年度に引き続き今回も、明治大正昭和にかけて録音された SP や LP 等の音源資料に基づきながら、それらについて多角的に検証してみたいと思います。

◇第 5 回 10 月 3 日 山田智恵子

「義太夫節の『節尽し』を聴く I」

「節尽し」とは、節（名称のある旋律型）を列挙したカタログのようなものです。義太夫節においては、その創流当時から、伝書中に「節尽し」が含まれていました。その後、さまざまな「節尽し」が書かれてきましたが、三味線弾きにより、実演・録音されたものがあります。そうした録音された「節尽し」をいくつか聞きながら、義太夫節における「節尽し」とはどのような内容で、なんのために作られたのか考えてみたいと思います。

◇第 6 回 11 月 7 日 後藤静夫

「義太夫節の『節尽し』を聴く II」

昭和 30 年代に録音されたと思われる「節尽し」には義太夫節に取り入れられた多様な音楽・芸能の「節」が分類し残されています。義太夫節がそれらをどのように取り入れ、活用し伝承してきたか。いくつかの具体例を聞きながら、義太夫節としての活用・伝承のあり方を検討してみます。

◇第 7 回 1 月 9 日 大西秀紀

「乗り物とレコード」

乗り物の進化は常に日本の近代化を支えてきました。よく「歌は世につれ」といいますが、人々は夢や希望やさまざまな思いを鉄道や船や飛行機に託し、そしてやがてそれらは歌になり、数多くのレコードに記録されました。今回は乗り物にまつわるレコードをご紹介します。

◇第8回 2月6日 田鍬智志

「雅楽の今昔～復元・再現演奏を聴く～」



日本の雅楽は、千数百年伝承の間、洗練を重ねてこんにちに至っています。中世初頭(平安末期)から近代、そして現代、それぞれの時代の雅楽はどのような音楽なのでしょうか。古資料にもとづく再現演奏と古今の録音から、その軌跡をたどってみます。

◇第9回 3月6日 竹内有一

「岡本文弥の新内節を聴く その2」



新内節というと、江戸の浄瑠璃というイメージが強いのですが、すでに幕末頃から京阪の都市でも稽古浄瑠璃や読み物として流行し、鴨川べりや街中での「流し」も派生していました。昨年に引き続き、多様な活動で知られる岡本文弥(1895～1996)の演奏を聴きながら、新内節の魅力と基本的特徴を探ります。

図書室

利用案内

(1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展観などもおこなっています。

(資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等)

- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。
- (2) 図書室および収蔵資料を利用できる方
 - ・本学の教職員(非常勤を含む)／学生
 - ・調査研究のために利用を必要とされる方
- (3) 開室日時と休室日
 - ・開室日時 毎週水・木・金曜日
10時～17時(12時～13時を除く)
 - ・休室日 月・火・土・日曜日、「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間 ※その他、必要に応じて、休室することがあります。最新情報は web サイトでご確認ください。
- (4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

○視聴

- ・当室所蔵のCD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

- ・毎週水・木・金曜日 10時～17時(12時～13時を除く)

○その他

- ・本学教職員(非常勤講師を含む)及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

(5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

京観世の記録化

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究 (2011 年度開始、2013 年度終了)

共同研究員：荒木亮、上野正章、恵阪悟、大谷節子、大西秀紀、大山範子、五島邦治、高桑いづみ、高橋葉子、田草川みずき、中尾薫、長田あかね、丹羽幸江、味方健、宮本圭造

2011 年度に、共同研究として発足したこの研究会は、「京観世」すなわち京都で伝承されてきた観世流謡の実態を明らかにし、謡が身近であった文化に光をあてることを目的としている。2013 年度は、2012 年度から継続しているゴマ点・資料部会と並行しながら、全体集会を開催した。成果の公開として、2013 年 10 月からは新研究棟 7 階展観スペースにおいて「京観世岩井家の歴史」(2014 年 10 月～2015 年 2 月)と題して、岩井家の資料の解説と展観を行った。また、10 月から 12 月まで、研究会のメンバーによる連続講座「謡を楽しむ文化—京観世とその周辺」を開催した。プロジェクト研究としての活動は 2013 年度をもって終了するが、出版物作成に向けて、次年度も作業を継続する予定である。

http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/events/c_course/2013/index2.html

<http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/archives/gallery/1310fujita/index.html>

2013 年

- 5月15日(水) ゴマ点部会 そなへはた序文他の検討
- 5月31日(金) ゴマ点部会 そなへはた、凡例、五段音法訳
- 6月6日(木) 全体会 (伝音セミナーとの合同)
- 6月15日(土) 全体会 日ノ出新聞輪読、そなへはた序文他検討、岩井家資料一覧表
- 7月6日(土) 全体会 日ノ出新聞輪読、展観準備
- 7月27日(土) 全体会 ゲスト：柴田真希氏、日ノ出新聞輪読、そなへはた序文検討
- 8月2日(金) 全体会 展観キャプション検討
- 9月10日(火) 資料部会 展観キャプション検討
- 10月1日(火) 全体会 展示作業
- 10月9日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 大谷節子)
- 10月16日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 上野正章)
- 10月23日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 宮本圭造)
- 10月30日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 中尾薫)
- 11月6日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 長田あかね)
- 11月13日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 五島邦治)
- 11月20日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 高橋葉子・丹羽幸江)
- 11月27日(水) 伝音連続講座Dとの合同 (講師 高桑いづみ)
- 12月11日(水) ゴマ点部会 話題提供：田中敏文氏

2014年

1月15日(水) 全体会 ウェブ化に関する話し合い

1月29日(水) ゴマ点部会 『秦曲正名闕言』 輪読

2月21日(金) 全体会 展観の撤去作業、出版の打合せ

時間：各回 13時30分～17時

場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室（新研究棟7階）

三味線音楽の音楽様式研究—町田佳聲の旋律型研究を中心に—

研究代表者：山田智恵子

プロジェクト研究（2011年度開始、2013年度終了）

共同研究員：大久保真利子、小塩さとみ、蒲生郷昭、久保田敏子、龍城千代枝、田中悠美子、寺田真由美、時田アリソン、廣井榮子、吉野雪子、竹内有一

昨年度に引き続き、町田佳聲の『三味線声曲における旋律型の研究』の再検討・再評価について、研究の取りまとめを行った。報告書作成に向けて、各共同研究員担当の原稿化とその内容調整のための編集作業を、期間前半は大久保真利子、寺田真由美、山田智恵子で、後半は大久保真利子と山田が担当した。

2013年

6月28日(金) 編集作業部会 執筆要項・凡例の作成

8月21日(水) 全体会 報告書原稿の読み合わせ

8月22日(木) 全体会 報告書原稿の読み合わせ・執筆要項の再調整

12月24日(火) 編集作業部会 報告書原稿の編集

12月25日(水) 編集作業部会 報告書原稿の編集

2014年

1月22日(水) 編集作業部会、1月23日(木) 編集作業部会、1月25日(金) 編集作業部会

2月19日(水) 編集作業部会、2月20日(木) 編集作業部会、2月21日(金) 編集作業部会

3月7日(金) 編集作業部会

3月8日(土) 全体会 報告書原稿の内容調整

3月9日(日) 全体会 報告書原稿の内容についての最終調整

雅楽（舞楽）および関連芸能のいまとむかし

研究代表者：田鍬智志

共同研究（2012年度開始）

共同研究員：遠藤徹（東京学芸大学准教授）、上野正章（当センター非常勤講師）、齊藤尚（当センター図書室非常勤嘱託員）、田村菜々子（京都市立芸術大学大学院・西本願寺仏教儀礼研究室研究助手）、出口実紀（元大阪芸術大学大学院嘱託助手）、比嘉舞（奈良女子大学大学院）、前島美保（当センター非常勤講師・東京芸術大学音楽学部 教育研究助手）、増田真結（京都市立芸術大学大学院・神戸女学院大学非常勤講師）、三島暁子（当センター非常勤講師・上野学園大学日本音楽史研究所研究員）

雅楽は、千年以上もの伝承の過程で、紆余曲折を経ながらも、こんにちに伝えられてきたが、その音楽様式や芸態が、どのように変わってきたのであろうか。また各時代における、雅楽に対する宗教的・社会的意味付けが、楽様式・芸態にどのような影響をおよぼしたのであろうか。昨年度は、「平安末～鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏を重点的におこなったが、今年度は辻家旧蔵楽書『雅楽辞典』（国立歴史民俗博物館蔵）の翻刻作業を中心に行った。

第1回研究会 2013年5月18日（土） 場所：本センター合同研究室2

『雅楽小辞典』出版にむけての方針

第2回研究会 2013年8月4日（日） 場所：大阪歴史博物館第2会議室

研究発表1 増田真結：琴歌譜の調絃を考える

研究発表2 比嘉舞：雅楽における「姿」論研究—中世楽書の記述を手掛かりとして—

見学 四天王寺簀の舞楽

第3回研究会 2013年10月12・13日（土日） 場所：京都市立芸術大学講堂

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み 第1回

出演：音楽学部オープンスクール日本伝統音楽特別講座「源氏物語の音楽—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲!? II—」

見学：勝林院開創一千年紀速夜法要「管絃講（順次往生講式）」

第4回研究会 2013年11月30日、12月1日（土・日） 場所：本センター合同研究室1

平安末・鎌倉時代の楽譜史料にもとづく再現演奏の試み 第二回

第5回研究会 2014年3月9・10日（火） 場所：合同研究室1

『雅楽辞典』の翻刻終了報告および来年度の計画

見学 東大寺修二会

伝記史料の研究—『夢跡集』『音曲家譜』を中心に—

研究代表者：竹内有一

共同研究（2013年度開始）

共同研究員：大西秀紀（京都市立芸術大学非常勤講師）、齊藤尚（京都市立芸術大学学芸員）、竹内道敬（元 国立音楽大学教授）、土田牧子（東京芸術大学非常勤講師）、配川美加（東京芸術大学非常勤講師）、前島美保（京都市立芸術大学非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

音楽史・芸能史においても誤伝・誤聞の類はつきものである。それを修正するには多くの困難があるが、まずはそれに気付くこと、顧みるための視座の持ち方が肝要であろう。近世の音楽芸能史料のうち、近世邦楽に関わった音楽家個人の事績について書き留めた史料は意外に少ない。そうした史料をより有効なかたちで活用するために、この共同研究では、以下のような作業を行い、音楽史・芸能史研究の基礎を固め直すことを目指す。

- (1) 研究対象とする史料の掘り起こしと精査（例：国立国会図書館所蔵『夢跡集』『音曲家譜』）
- (2) (1) の周辺史料や関連する人物についての調査研究
- (3) 既存の伝記研究・事典等における記述の分析と考察
- (4) 調査研究のまとめと公開（翻刻、調査報告等の執筆）

第1回 2013年5月27日（月）13:00-16:00

場所：日本伝統音楽研究センター研究室（以下、特記なき場合は同じ）、研究計画と資料準備

第2回 2013年7月28日（日）13:00-17:00、場所：伊勢市立伊勢古市参宮街道資料館ほか

伊勢古市の芸能史跡調査、お白石持ち行事と木遣り唄調査

第3回 2013年7月29日（月）13:00-18:00、(1) 研究計画と資料準備、(2) 『夢跡集』の特色と常磐津

節関係者（竹内有）、(3) 『夢跡集』調査報告—中節関係者—（竹内道）

第4回 2013年9月5日（木）15:00-19:00、長唄関係者調査の打ち合わせ

第5回 2013年9月6日（金）13:00-17:00

(1) 『夢跡集』調査報告—長唄関係者—（前島）、(2) 古曲の伝承者と音源（大西）

第6回 2013年10月28日（月）13:00-17:00

(1) 『夢跡集』調査報告—長唄関係者—（土田）、(2) 富本節「乙姫」の上演と資料（竹内有）

第7回 2013年11月18日（月）13:00-17:00

(1) 『夢跡集』調査報告—河東節関係者—（吉野）(2) 古曲の伝承者と音源（大西）

第8回 2013年12月16日（月）13:00-17:00、『夢跡集』調査報告—河東節関係者—（吉野）

第9回 2014年1月20日（月）13:00-17:00、『夢跡集』調査報告—宮古路節・清元節関係者—（竹内道）

第10回 2014年2月15日（土）13:00-17:00、『夢跡集』調査報告—長唄関係者—（配川）

浪花節の語りの音楽様式を見極める

研究代表者：時田アリソン

共同研究（2013年度開始、2013年度終了）

（京都市立芸術大学客員教授・同志社大学社会学部客員教授）

幹事：山田智恵子（当センター教授）

共同研究員：芦川淳平（浪曲作家、批評家）、大久保真利子（大阪芸術大学大学院芸術研究科研究員）、大西秀紀（当センター非常勤講師）、北川純子（大阪教育大学）、後藤静夫（当センター所長）、薦田治子（武蔵野音楽大学）、諏訪淳一郎（弘前大学）、藺田郁（国立民族学博物館）、田中悠美子（くらしき作陽大学音楽学部非常勤講師）、寺田真由美（相模女子大学）、Faith Bach（関西学院大学）、兵藤裕巳（学習院大学）、藤田隆則（当センター教授）
ゲストスピーカー：浪曲師 三原佐知子、浪曲師 松浦四郎若、曲師 虹友美、眞鍋昌賢（北九州大学）

目的：20世紀の日本音楽史から漏れた浪花節（浪曲）という語り芸の研究を行う。量が少ない先行研究を踏まえて、関東節、関西節、中京節の実態を解明し、語りの節名の流通を見極める。

概要：明治期に生まれて、20世紀前半に一世を風靡した浪花節の人気の秘密とは何だったのか。戦後、浪花節の流れを汲む演歌にその場所を譲ったが、今も東京や大阪で新しい世代の浪曲師（語り手）と曲師（三味線弾き）が育っており、新曲も作られているということは、その人気は絶えたのではない、ということがわかる。女流浪曲師が大多数で、ファンの層はまだ圧倒的に中年以上の男性である。しかし、若いファンもいるので、将来性がある。生きている、古典化されていない大衆芸能を研究する意義はいろいろある。音楽的に語る芸として生きていることは貴重であるし、講談や落語同様、日本独特の話芸として、広くアピールするストーリー性にも富んでいる。三味線を伴奏に、歌いながら熱情を込めた語り方の修業はなかなか大変難しいもので、芸術性が高いからである。

内容：この共同研究では、現在の浪花節の状態を調査し、その歴史的歩みをその社会性とともに認識し、語りと三味線両方の音楽分析を行う。楽譜を持たないこの語り物の即興性と規範性のバランスを検討することも大切であり、書かれたテキストの役割も探らなくてはならない。レコードその他の録音メディア、印刷メディアとインターネットと浪花節の過去と現状を見極め、メディアとの関係がこれからどのように浪花節を発展させるか、その可能性を探りたい。これまでの語り物研究に新たな貢献ができることが期待される。

今年度の研究会の開催は以下のとおりである。開催場所は、特記しない場合、合同研究室2。

第1回 2013年5月19日（日）話し合い、計画作り

第2回 6月29日（土）

11:00 時田アリソン 問題提起

13:00 芦川淳平「浪曲作品の成立過程とその変容」

15:00 「関東節と関西節を見極める」:

北川純子「玉川家の『祐天吉松』」、時田アリソン「京山の『祐天吉松』」

第3回 8月20日（火）

11:00 時田アリソン「浪曲を聴く：ワークショップ」

13:30 大久保真利子「文部省と浪花節」

15:30 寺田真由美「うたごえ運動と浪花節」

17:00 総討論

第4回 10月26日(土)

11:00 時田アリソン「浪曲を聴く」

13:00 浪曲師に聞く準備と公開講座の打合せ

15:00 関西の浪曲師に聞く：松浦四郎若

16:00 関西の浪曲師に聞く：三原佐知子

10月27日(日)

11:00 諏訪淳一郎「青森県内の芸能からみた浪花節のふしと物語のパラメータ分析」

13:00 蘭田郁「近代の人形芝居と浪花節」

14:30 藤田隆則「能・語り物・浪曲に潜む共通性」

第5回 11月30日(土)

11:00 時田アリソン「浪曲の音楽分析の経過報告」

14:00 薦田治子「浪花節と薩摩琵琶の比較試論－音楽の構造単位に注目して－」

15:30 真鍋昌賢「浪曲における米若・雲月の時代」

12月1日(日) 場所：国立文楽劇場（大阪府中央区日本橋）

11:00 国立文楽劇場会議室にて、1月25日「公開講座」などの打ち合わせ、午後の外題のお話

14:00 国立文楽主催「師走浪曲名人会」を観劇

出演者 天光軒満月、京山小圓嬢、松浦四郎若、三原佐知子、春野恵子、京山幸枝若

第6回 1月25日(土) 14時～17時、場所：京都市立京都堀川音楽高等学校音楽ホール

第37回公開講座を主催。委細は彙報に記載した。

上野 正章「日本伝統音楽研究のアウトプット編成とアーカイブ構築」

今年度の日本伝統音楽研究センターにおける研究活動は、参加の研究会活動（プロジェクト研究及び共同研究）を中心に進展した。

まず、共同研究「雅楽（舞楽）および関連芸能のいまとむかし」について。1. 文献研究、2. 演奏活動、3. フィールドワークの観点から研究概要を記したい。

1. 文献研究に関しては、歴史民俗博物館蔵辻家雅楽関係資料中の雅楽辞典の草稿を翻刻して出版するというプロジェクトが行われた。そして、担当したのは草稿の電子データ化である（「ぎがく」から「こか」及び「やうこし」から「ゆびさき」まで）。総じて作業は順調に進展したが、幾らか課題も残った。フォントの無い、あるいは探し出すことができなかった文字の処理、注釈と引用文献の処理である。来年度の出版に向けて、作業の継続が予定されている。

2. 演奏に関しては、新入生への日本伝統音楽研究センターの紹介や、源氏物語ミュージアムにおけるミュージアムコンサート、ロシアでの演奏会において笙を担当した。古楽の音による再現は意義深い試みであったが、自身の演奏に関しては猛省が求められるレベルであった。膨大な時間を費やしたものの拙い演奏しか出来ず、常に楽団の足を引っ張り続けた。なお、ロシア旅行に際して講演が行われた。内容は雅楽から見た日本の伝統音楽について時代を遡るようにして複数の講師が分担して概説するというものである。担当させていただいたのは、近代における雅楽であった。雅楽の内側の人々——明治の楽人達——がどのように雅楽の伝承を引き継ぎ、また、新進の西洋音楽の導入に尽力したのかということ及び、雅楽の外側の人々——作曲家等——がどのようにして雅楽を自身の音楽活動に取り込んだのかということ論じた。ロシアにおいて日本伝統音楽の紹介・研究はまだ待たれている領域であり、総合的な概説は一定の成果があったのではないだろうか。

3. フィールドワークに関しては、東大寺二月堂の修二会を調査した。また、四天王寺において箏の舞楽を見学した。雅楽が現代音楽だった時代の音楽と文化を考える格好の機会となった。

次いで、プロジェクト研究「京観世の記録化」（継続）について。これに関してはメンバーが共同で行う公開講座に参加させていただいた。担当分野は近代京都における京観世である。様々な角度からのアプローチが可能なテーマであるが、明治期末に発行された『京都日出新聞』の記述に注目して議論を展開した。同紙には流派を横断してきわめて詳細な謡会の記録が記されているからである。明治 43 年 1 月及び 2 月の演芸欄を取り上げて、あたかも顕微鏡で見るが如く細かく謡曲の状況を紹介し、次いでイベント予告、報告等の記事を網羅的に示し、これらを重ね合わせて当時の文化状況を考察した。駆け足で論じたのでいささか物足りないところがあったかもしれないが、地元の京都ということもあったのか、活発な質疑応答が行われた。また別に、『京都日出新聞』の謡関連記事を読み上げ、謡会の開催場所を京都市の地図で示すという試みも行った。

その他、『京都日出新聞』に掲載された明治期末の京都の音環境が克明に報じられている記事を利用してサウンドスケープに関する論文を執筆し、日本サウンドスケープ協会の機関誌に投稿した。受理され、掲載予定である。

なお、『京都日出新聞』の謡曲のデータベース化は、新聞の精読に関してはひとまず区切りがついたが、記事の処理については 2 年分整理しただけに留まり、さらに翻刻に関しては結局ほとんど着手できなかった。本研究会の集録編纂に向けて、急いで積み残した仕事を進めなければならない。

その他、アーカイブ関連の仕事として、本センター所蔵の東明流関連資料を整理した。また、作業の過程で平

岡瀬に興味を持ち簡単な調査を行った。いわゆるお大尽、歴々といった人々における邦楽文化に関して理解が深まった。ただ、懸案になっていた楽器演奏画像のアーカイブは完成することが出来なかった。

◆関連する業績

* 雅楽の演奏と講演（詳細は共同研究「雅楽（舞楽）および関連芸能のいまとむかし」の項を参照）。

* でんおん連続講座D 第2回（10月16日）「日出新聞に記録された京都の謡会」を担当。また、第5回（11月6日）「日出新聞を読む」を共同で担当。

大西 秀紀「平成 25 年度伝音セミナー使用曲」

平成 25 年の「伝音セミナー 日本の希少音楽資源にふれる（全 9 回）」について、報告者は第 1、7 回の計 2 回を担当した。各回の内容は次の通りである。

■第 1 回 演奏家の個性 2013.05.09

「SP レコードに記録された演奏を聴くと、現在私達が耳にするものよりもずっと個性的で、時には戸惑いすら感じることがあります。一般に伝統芸能は、元の姿かたちが厳格に今日まで伝わっていると思われがちですが、実はこの 100 年ぐらいの間にもさまざまに変化してきているようです。今年度第 1 回の伝音セミナーは、SP レコードを通じて演奏家のさまざまな個性をながめて見たいと思います。」（広報チラシより）

○長唄 元禄花見踊より

- 1 7 芳村伊十郎〈唄〉、杵屋栄蔵、杵屋栄二〈三〉、他
コロムビア CLS5173b（初出・B-360～362、昭和 28 年 11 月 24 日録音）
- 2 3 松永和楓、（松永）和三八〈唄〉、鉄四郎、常次〈三〉
米ビクター 11233（明治 41 年発売）
- 3 富士田音蔵〈唄〉、杵屋佐吉、岡安喜三郎〈三〉、他
ニッポノホン 1695（初出・明治 44 年 6 月発売）
- 4 4 松永和風〈唄〉、杵屋五三郎、杵屋五隻〈三〉、他
コロムビア 35333（昭和 6 年 4 月発売）
- 5 4 吉住小三郎〈唄〉、2 稀音家浄観、稀音家六治〈三〉、他
コロムビア 4621（昭和 11 年 3 月発売）
- 6 長唄 勸進帳つひにはなかなぬ
6 芳村伊十郎〈唄〉、13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉〈三〉
英グラモホン 12453（明治 36 年録音）
（『全集 日本吹込み事始』（東芝EMI TOCF-59064）より）

○義太夫節での比較

- 7 芦屋道満大内鑑 葛の葉子別れの段
豊竹山城少掾〈浄〉、4 鶴沢清六〈三〉
コロムビア G19 - G24（昭和 22 年 8 月 25 日録音
／昭和 24 年 12 月発売）
（『豊竹山城少掾 義太夫名演集（3）』コロムビア
COCJ - 37152 より）
- 8 廿四孝
竹本摂津大掾〈浄〉、6 豊沢広助〈三〉
米コロムビア 2716-E（明治 38 年録音）
- 9 お俊伝兵衛（堀川連弾）
2 竹本津太夫〈浄〉、4 豊沢猿糸〈三〉、豊沢猿作〈ツレ〉

米コロムビア 2896 - B（明治 36 年録音カ・ダイヤ
モンド 5166-A を使用）

- 10 菅原寺子屋
9 竹本染太夫〈浄瑠璃〉、4 豊沢広作〈三味線〉
ライロホン 70849（明治 43 年 11 月録音）
- 11 壺坂寺
3 竹本大隅太夫〈浄〉、3 豊沢団平〈三〉
シンホニー 34（明治 43 年 5 月発売・コロムビア
28824 を使用）
- 12 野崎村
竹本朝太夫〈浄〉、豊沢松太郎〈三〉
米ビクター 12016（明治 41 年発売）
- 13 艶姿女舞衣（酒屋の段）
6 竹本土佐太夫〈浄〉、4 野沢吉三郎〈三〉
ニッポノホン 15990 - B（大正 14 年 3 月発売）
- 14 寺子屋
3 竹本南部太夫〈浄〉、4 豊沢猿糸〈三〉
シンホニー 19（明治 43 年 5 月発売）
- 15 艶姿女舞衣（酒屋の段）
2 竹本春子太夫〈浄〉、2 豊沢新左衛門〈三〉
米ビクター 11100（明治 41 年発売）
- 16 紙治（河庄の段）
3 竹本津太夫〈浄〉、6 鶴沢友次郎〈三〉
ニッポノホン 5808（大正 11 年 11 月発売）
- 17 仮名手本忠臣蔵七段目
4 竹本雛太夫、竹本錦太夫〈浄〉、豊沢新造〈三〉
ニッポノホン 3120（大正 7 年 7 月発売）

■第7回 乗り物とレコード（鉄道編） 2013.01.09

「乗り物の進化は常に日本の近代化を支えてきました。よく「歌は世につれ」といいますが、人々は夢や希望やさまざまな思いを鉄道や船や飛行機に託し、そしてやがてそれらは歌になり、数多くのレコードに記録されました。今回は乗り物にまつわるレコードをご紹介します。」（広報チラシより）

○鉄道唱歌 第一集（東海道編）

- 1 多梅稚作曲（第21～30番）
歌 納所文子
オリエント A431（大正2年発売カ）
- 2 上眞行作曲（第1～5番）
ひまわりキッズ、福岡真紀（唄）
キング KICG 3251（CD）（平成19年8月5日録音）
- 3 多梅稚作曲（京都周辺・第45～55番）
ダーク・ダックス（唄）、キングオーケストラ
キング KICG 3251（CD）（昭和45年7月19日録音）
- 4 満州鉄道唱歌
霧島昇、松原操（唄）、コロムビアオーケストラ
コロムビア 30435（昭和14年12月新譜）
- 5 参宮線行進曲
竹内里子（唄）、デッキ-ジャズバンド
タカシマヤ 95-A（昭和5-6年発売カ）
- 6 和歌山線行進曲
竹内里子（唄）、デッキ-ジャズバンド
タカシマヤ 95-B（昭和5-6年発売カ）
- 7 大大阪地下鉄行進曲（DVD映像）
徳山穂、小林千代子（唄）、日本ビクター管弦楽団
ビクター 52722-A（昭和8年7月新譜）
- 8 大大阪地下鉄小唄
筆香（唄）、小定、千代（三）（管弦楽入）
ビクター 52722-B（昭和8年7月新譜）
- 9 超特急ツバメ（ジャズコーラス）
中野忠晴、コロムビア・リズム・ボーイズ（唄）
コロムビア・ジャズバンド

- コロムビア 28112（昭和9年12月新譜）
- 10 鉄道精神の歌—轟け鉄輪—
中野忠晴（唄）、コロムビア合唱団、コロムビア・オーケストラ
コロムビア A223（28264）（昭和10年4月新譜）
 - 11 タンピング音頭
新橋・両国・上野・横浜・大宮・新宿保線区員
コロムビア A324（昭和10年5月23日録音、同11年夏配付）
 - 12 お伊勢まいり 御遷宮記念奉祝祭
制作 近畿日本鉄道宣伝課
日本放送録音 PH167-A（昭和28年制作カ）
 - 13 秋の玉手山と紅葉の名所宣伝用
制作 近畿日本鉄道宣伝課
日本放送録音 PH167-B（昭和28年制作カ）
 - 14 京阪旧3000系特急車引退記念CDより
・補助いす解錠・座席転換・初代特急発車メロディ
 - 15 阪急京都線発車メロディー（YouTube）
・接近・到着・梅田駅発車
 - 16 南海電車の歌（YouTube）
伴久美子（唄）
 - 17 近鉄特急（近鉄のうた）（YouTube）
楠トシエ、ポニージャックス（唄）
 - 18 京阪特急の歌（YouTube）
楠トシエ、フォー・コインズ（唄）
 - 19 京都市バス201号系統の歌（Ver.2012）
森健二（唄）、アナウンス・藤田啓子
機関車レコード MDR-2202

◆関連する口頭発表

- * 2013.06.07 大西秀紀「戦前の都をどり」、藝能史研究会第50回大会、同志社女子大学
- * 2013.08.27 大西秀紀「音声資料からたどる義太夫節演奏の近代」、研究プロジェクト「東アジア古典演劇の「伝統」と「近代」—「伝統の相対化と「文化」の動態把握の試み—」、国際高等研究所
- * 2013.12.08 大西秀紀「未確認の音声資料発掘の可能性」、歌舞伎学会秋季大会、東京文化財研究所
- * 2014.02.23 大西秀紀「大阪の声と唄」、大阪芸能懇話会、難波生涯学習センター
- * 2014.03.15 大西秀紀「手打について」、岫半分芝居半分

の会、高槻市民会館

◆関連する講演

- * 2013.10.05 大西秀紀「ニッソー長時間レコードの再生」、第8回無形文化遺産部公開学術講座、『ニッソー長時間レコード 昭和初期上方落語の口演記録』—東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵記録をめぐって—、東京文化財研究所
 - * 2014.01.29 大西秀紀「義太夫節SPレコードを聴く会」、国立文楽劇場
- ◆関連する執筆
- * 2013.11 豊竹山城少掾ディスコグラフィ『豊竹山城少掾展』展示図録、早稲田大学演劇博物館、pp.24—34、

前島 美保「上方歌舞伎の音楽演出に関する研究」

本年度の研究課題、上方歌舞伎の音楽演出については、主に台帳（台本）と附帳の読み解き、および音源資料の発掘の側面から多角的に進めた。台帳は『歌舞伎台帳集成』に基づき音楽演出の抽出作業を行ったが、例えば江戸中期、異国（中国）を象徴する音楽として「唐楽」が使用されており、また安永年間と見られていた（渥美清太郎）「禅の勤め」の初出は、従来の見解よりやや遡る可能性が出てくるなど、極めて豊富な用例と共に、問題となってくるであろう事例が多数見出された。こうした江戸時代の音楽演出の分析と解釈についてはより一層の慎重を要するが、後世の史料である附帳と共に、これからも検討を重ねてゆきたい。以上の研究成果の一部は、日本音楽学会第64回全国大会にて口頭発表した。

一方、音源資料については、大西秀紀氏のご協力を仰ぎながら発掘、再発見に努めた。阪東小三郎、阪東徳三郎、中村新三郎など明治末期から大正昭和にかけて活躍した上方歌舞伎の囃子方の演奏は、開放的な甲高い声、賑やかな囃子、地歌の使用など、独特の音色に包まれていたことが判明した。同時代の東京系の歌舞伎囃子方の音源と比較するとその差異は鮮明で、近世以来の上方特有の伝承の一端がこうした音源事例から具体的に看取された。以上の成果は、本年度の第4回伝音セミナー「上方歌舞伎の囃子の世界」にて報告した。なお、伝音セミナーにて視聴した主な音源は以下の通り。

- 「長唄 鳴物入 若菜摘 一、四」大坂 阪東小三郎、小林紋左衛門、外二名 [明治41年発売 米国ビクター 11012-A, 11015-D]
- 「長唄 鳴物入 秋の調べ 一、二」大坂 阪東小三郎、小林紋左衛門 [明治41年発売 米国ビクター 11022-A, 11023-B] (全3枚の内)
- 「地唄 黒髪 (三下り)」唄 阪東徳三郎、琴 美馬政、三味線 小林アイ、篠 小川幸次郎 [大正12年5月発売 トーア 137/138]
- 「長唄 新曲浦島」唄 阪東徳三郎、三味線 杵屋六吉、杵屋柳七郎、笛 望月太満太郎、小鼓 望月太意蔵、大鼓 望月太明蔵、太鼓 望月太計蔵 [昭和初期カ 特許レコード2047]
- 「鈴ヶ森」初代中村鴈治郎 (権八)、七代目松本幸四郎 (長兵衛) [阪東徳三郎] [大正12年3月発売 ニッポノホン9163,9164]
- 「忠臣蔵七段目茶屋場」二代目実川延若 (寺岡平右衛門)、四代目中村福助 (お軽)、浄瑠璃 竹本岸太夫、三味線 豊沢団信、唄 芳村喜三郎、三味線 中村新三郎、囃子 小川源次社中 [昭和7年12月発売 タイヘイ5113,5114]
- 「楼門五三桐」二代目実川延若 (石川五右衛門)、四代目中村福助 (真柴久吉)、竹本岸太夫、豊沢団信、芳村喜三郎、中村新三郎、小川源次 [昭和8年2月発売 タイヘイ5121]
- 「伊勢音頭恋寝刃 (油屋の場)」初代中村鴈治郎 (貢)、四代目中村福助 (お紺)、市川延女 (万野)、中村魁車 (喜助)、二代目市川箱登羅 (お鹿) ほか、唄 阪東徳三郎、三味線 中村新三郎、囃子・鳴物連中 [昭和6年6月発売 コロムビア 35152~5]
- 「めりやす五大力」独吟 中村美秋、三味線 杵屋栄二、松永寿三郎、鳴物 望月太意之助社中、台詞 日大芸術学部演劇研究会 指導 阪東秀調 [『東西花競べ上方芸と江戸の芸』LPより、昭和41年]

本センターでの研究活動は、対象とする芸能が育まれた土地ということもあり、非常に有意義かつ刺激的であった。今後も文献史料、絵画資料、音声資料の他、現在の伝承や民俗芸能等に遺る痕跡を有機的に関連させながら、江戸時代から現在に至る上方歌舞伎音楽の実証的な研究手法を探求してゆきたいと考えている。

◆関連する執筆

- * 2013.06 論文「歌舞伎囃子方の東西交流—宝暦期から天明期にかけて—」、日本伝統音楽研究センター研究紀要『日本伝統音楽研究』第10号、1~21頁
- * 2014.03 (予定) 報告「武蔵の盆踊りと大踊り」、奈良県教育委員会編『奈良県の民俗芸能』

◆関連する口頭発表

- * 2013.11.03 パネリスト「『18世紀音楽』新考—地域を越えた音楽史学の可能性—」(ラウンドテーブルⅢ)、日本音楽学会第64回全国大会

◆講義・講座等

- * 2013.09.05 平成25年度第4回伝音セミナー「上方歌舞伎の囃子の世界」、日本伝統音楽研究センター

◆史料・現地調査等

- * 2013.06.04 国立国会図書館史料調査
- * 2013.07.12 国立劇場史料調査
- * 2013.08.13~15 奈良県十津川村盆踊り調査
- * 2013.08.28~30 大阪市立大学「上方文化講座」参加
- * 2013. 9.27, 10.22, 2014.02.12, 03.19 東京芸術大学 附属図書館史料調査
- * 2013.10.30 島根県立美術館展観見学
- * 2014.03.05 早稲田大学演劇博物館史料調査

後藤 静夫

◆著作活動

- * 2013・06・30 資料「文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る その3 豊竹十九大夫」『日本伝統音楽研究』（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター紀要）第10号、pp.37-49
- * 2013・07・31 随想「京の地で、音楽・芸能から伝統文化を研究」、『統計京都』490号、p.1
(以下、2014年度分)
- * 2014・06・30 資料「文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る その4 7代鶴澤寛治」『日本伝統音楽研究』（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター紀要）第11号、pp.25-40
- * 2015・春(予定) 著述“*Bunraku*”, *The Cambridge History of Japanese Theatre*, Cambridge University Press, London

◆プロデュース活動

- * 2013・11・08 企画・監修「伝統演劇・文楽」三業の実演と解説・講義、京都造形芸術大学通信教育部 総合教育科目、国立文楽劇場

◆講演・口述・解説活動

- * 2013・04・16 意見口述「古典芸能の補助金について」（京都府古典芸能振興公演補助金意見聴取会）、京都府文化環境部
- * 2013・07・14 解説・司会「山車文楽とからくり」山車文楽・からくり公演 知立市文化会館パティオ花しょうぶホール
- * 2013・09・16 講演「文楽の魅力と表現」河内長野市古典講座、河内長野ラブラリーホール
- * 2013・11・07 解説「義太夫節の節尽くしを聞くⅡ」伝音セミナー
- * 2014・01・17 講演「カラクリと近代技術」（京都工業会会員勉強会）、京都工業クラブ
- * 2014・02・14 解説出演「文楽・伊賀越道中双六・沼津の段」（『日本の芸能』NHK教育TV）
- * 2014・02・01 講演と解説「近世庶民の娯楽・

人形浄瑠璃—その広がり」「伽羅先代萩・正岡のくどき」（古典の日フォーラム in 関西）、国立文楽劇場

- * 2014・03・12 意見口述「古典芸能の大道具幕について」名古屋華新大道具幕購入評価委員会、国立歴史民俗博物館

◆講義・講座活動

- * 2013・05・13 「古典としての文楽とは①」大阪弁護士会文化講座、大阪弁護士会館
- * 2013・06・10 「古典としての文楽とは②」、同上
- * 2013・06・11 「文楽入門—太夫・三味線」関西学院総合講座、関西学院
- * 2013・06・18 「同上—人形三人遣い」同上
- * 2013・06・25 「同上—文楽の企画・制作—アートマネジメントの側面から」同上
- * 2013・08・21 「人形浄瑠璃・文楽とは」シニアシティカレッジ 大阪南YMCA
- * 2013・11・08 「文楽の制作とは」京都造形芸術大学通信教育部総合教育科目講座、国立文楽劇場
- * 2014・03・05 「人形浄瑠璃・文楽の理解の深化のために」シニアシティカレッジ・アドバンス、大阪教育大学天王寺キャンパス
- * 2014・03・26 「人形浄瑠璃とはどんな芸能か」シニアシティカレッジ 大阪教育大学天王寺キャンパス

◆調査・取材活動

- * 2013・05・21 名古屋華新 大道具幕保管庫調査
- * 2014・03・01～02 讃岐源之丞座他伝統民俗芸能（香川県三豊市）調査

◆学内活動

- * 理事

◆対外活動

- * 京都府古典芸能振興公演補助金意見聴取会委員
- * 京都大学地球環境学学三才学林 運営懇話会委員
- * 三重県志摩市教育委員会 安乘人形芝居検討委員会委員
- * 京都和文華の会 理事 他

田 鍬 智 志

◆著作活動

- * 2014・02 「平家物語の音楽その2—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲!?—」、当センターホームページ「伝音アーカイブズ」
- * 2014・02 「源氏物語の音楽—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲!?—」、当センターホームページ「伝音アーカイブズ」

◆講演（演奏つき）活動

- * 2013・09・19 宇治市源氏物語ミュージアム平成25年度連続講座『美と心、そして歌—日本文化のなかの源氏物語—』第5回「源氏物語の音楽」、同館講座室。演奏協力：荒木真歩・三島暁子・上野正章・齊藤尚・出口実紀・田村菜々子・前島美保・増田真結・古野雄真。曲目：胡蝶楽急（以上現行の演奏）、伊勢海、胡蝶楽破・急、石上流泉、上原石上流泉、陵王荒序・入破（以上古楽譜解説演奏）。
- * 2013・10・13 京都市立芸術大学音楽学部オープンスクール日本伝統音楽特別講座「源氏物語の音楽—平安・鎌倉時代の雅楽はこんな曲!? II—」、京都市立芸術大学講堂。演奏協力：荒木真歩・三島暁子・上野正章・齊藤尚・前島美保・古野雄真・増田真結。曲目：胡蝶楽急（以上現行の演奏）、胡蝶楽急、伊勢海、陵王入破（以上古楽譜解説）。
- * 2013・11・09 「特別企画 師長公と琵琶白菊」、一般社団法人荻野検校顕彰会・朝日カルチャーセンター名古屋共催、於名古屋市西文化小劇場。演奏協力：齊藤尚。曲目：秋風楽（現行演奏と古楽譜解説演奏）、大常博士楊真操、石上流泉、上原石上流泉（古楽譜解説演奏）。
- * 2013・12・11-13 モスクワ音楽院ワールドミュージック文化センター第15回日本の心音楽祭（XV Музыкальный фестиваль "ДУША ЯПОНИИ"）、『宮廷音楽 雅楽—歴史・理論・実践—（Придворная музыка гагаку: история, теория, практика）』12日レモンストレーション付き講演「箏・琵琶が主役の平安時代の音楽—古楽譜にもとづく再現—（Светская музыка эпохи Хэйан для цитры кото и

лютни бива: историческая реконструкция по древним манускриптам)」、ワークショップ「雅楽と一緒にやってみませんか?—雅楽体験演奏のマスタークラス—（Сыграем гагаку вместе? Мастер-класс игры на инструментах оркестра гагаку)」。通訳：ユリヤ・ミナコワ。

13日朗読付きコンサート「平安時代の恋愛と音楽—紫式部の『源氏物語』から—（Любовь и музыка в эпоху Хэйан: по роману Мурасаки Сикибу "Повесть о Гэндзи"）」、モスクワ音楽院会議ホール。演奏協力：三島暁子・上野正章・齊藤尚・出口実紀・田村菜々子・ナタリア＝グルピンスカヤ。曲目：越殿楽、胡蝶楽急（以上現行の演奏）、越殿楽、秋風楽、青海波、伊勢海、胡蝶楽破・急、陵王入破（以上古楽譜解説）。

- * 2014・01・18 アウトリーチ事業 PR 講演「ナイス・ミート@ウエスティ」、出演：でんおん管絃講（田鍬・齊藤尚）。曲目：想夫恋、陪臚、賀殿急、新羅陵王急（以上古楽譜解説）。

◆講座・講義活動

- * 日本音楽史 I、京都市立芸術大学音楽学部
- * 日本伝統音楽研究 c13/ c24、日本伝統音楽基礎演習 c13/c24、大学院音楽研究科
- * 2014・02・06 第8回伝音セミナー「雅楽の今昔—復元・再現演奏を聴く—」、伝音センター合同研究室 1

◆調査・取材活動

- * 2013・05・08 松尾寺仏舞（京都府舞鶴市）取材
- * 2013・06・10 比叡山横川元三大師堂六道講式取材（引率）
- * 2013・07・14 山名神社天王祭舞楽（静岡県森町）取材
- * 2013・08・04 四天王寺簀の舞楽見学（共同研究会引率）
- * 2013・08・13-16 十津川村の盆踊り調査、奈良県民俗芸能緊急調査
- * 2013・10・12 勝林院開創一千年紀速夜法要「管絃講（順次往生講式）」取材（共同研究会引率）
- * 2012・11・23 十津川村獅子神楽調査、奈良県民俗芸能緊急調査

- * 2014・01・01-02 大日堂舞楽（秋田県鹿角市）取材
- * 2014・03・10 東大寺修二会取材（共同研究会引率）

◆学内活動

- * 附属図書館芸術資料館運営委員会、自己点検評価委員会
- * 大学院入試委員会

竹内 有一

◆著作活動

- * 2014.03.31 編著『常磐津節演奏者名鑑 第3巻—近代1：幕末期から明治期まで—』（常磐津節演奏者の経歴に関する調査報告書 2013年度、文化庁補助事業）、常磐津節保存会、156pp
- * 2013.06.30 資料紹介「伝音アーカイブズ『胡弓に関する史料年表—16～17世紀—』（加納マリと共著）、『日本伝統音楽研究』第10号、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、pp.1-26
- * 2014.01.01 研究ノート「伊勢古市への探訪と「油屋」初演の謎」、（一社）関西常磐津協会機関誌『つどい』第40号、pp.4-5
- * 2013.05.11 解説「地歌：たぬき」「長唄舞踊：静と知盛」「尺八：アキー二つの尺八のための—」「長唄舞踊：汐汲」「大和楽：恋の管笠」「地歌舞：ゆき」、「出演者素描」（8名）、国立文楽劇場第29回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊邦楽鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.3-8
- * 2013.04.24 解説「常磐津節の特色」「老松」「花舞台霞の猿曳」「共演者プロフィール」、『清栄会奨励賞受賞記念常磐津小欣矢常磐津演奏会』パンフレット、（公財）清栄会、pp.2-5

◆口述活動

- * 2013.04.24 解説・司会「清栄会奨励賞受賞記念 常磐津小欣矢常磐津演奏会」、（公財）清栄会、国立劇場伝統芸能情報館レクチャー室
- * 2013.07.29 研究報告「『夢跡集』の特色と常磐津節関係者」、日本伝統音楽研究センター共同研究「伝記史料の研究—『夢跡集』『音曲家譜』を中心に

—」、日本伝統音楽研究センター

- * 2013.09.07 構成・解説・楽器展示・司会「三味線ってなに？～製作過程を知る～」（月イチ古典芸能シリーズ第3回）、五感で感じる和の文化事業、京都芸術センター
- * 2013.10.12 講演「常磐津の魅力」、滋賀県次世代創造発信事業 古典芸能アートマネジメント人材育成講座（舞台芸術研究コース 鑑賞編）、滋賀県立文化産業交流会館
- * 2013.10.28 研究報告「富本節「乙姫」の上演と資料」、日本伝統音楽研究センター共同研究「伝記史料の研究—『夢跡集』『音曲家譜』を中心に—」、日本伝統音楽研究センター
- * 2014.03.06 構成・解説「岡本文弥の新内節を聴く その2」、平成25年度第9回伝音セミナー、日本伝統音楽研究センター

〈日本伝統音楽研究センター共同研究〉

- * 共同研究「伝記史料の研究—『夢跡集』『音曲家譜』を中心に—」研究代表者（詳細別掲）
- * プロジェクト研究「三味線音楽の音楽様式研究—町田佳聲の旋律型研究を中心に—」共同研究員

◆教育・講義

- * 日本伝統音楽演習c（前期15回、後期15回）、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- * 日本音楽史Ⅱ「近世・近代の音楽芸能」（後期15回）、京都市立芸術大学音楽学部
- * 京都文化学基礎演習Ⅲ「歌舞伎音楽入門」（前期15回）、京都府立大学文学部
- * 京都文化学基礎演習Ⅳ「歌舞伎音楽研究」（後期15回）、京都府立大学文学部
- * 音楽学関係科目1「歌舞伎音楽の演奏者研究」（前期集中講義）、東京芸術大学音楽学部

◆調査・取材

- * 常磐津節演奏者の経歴に関する調査（常磐津節保存会、文化庁補助事業）（主な史料調査先：国立劇場・国立文楽劇場・阪急文化財団池田文庫・早稲田大学演劇博物館・京都府立総合資料館）
- * 常磐津節ほか三味線音楽の伝承・演奏に関わる実態調査（国立劇場・国立文楽劇場・京都南座・大阪松竹座・歌舞伎座・関西常磐津協会ほか）

- * 『都新聞』等の新聞記事における芸能関係報道の調査およびデータ作成（国立国会図書館・京都大学図書館・花園大学図書館ほか）
- * 詞章本出版物（近世版本）等の書誌調査およびデータ作成
- * 人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎的研究（日本学術振興会科学研究費補助金、研究課題番号 24320042、研究分担者）

◆演奏活動（常磐津節浄瑠璃方）

- * 2013.08.02 常磐津節「景清」、NHK Eテレ「にっぽんの芸能—景清はイイ男?—」
- * 2013.08.04 常磐津節「油屋酒宴」「油屋縁切り」「油屋十人斬り」、関西常磐津協会第74回公演会、国立文楽劇場
- * 2013.09.11 常磐津節「お夏狂乱（上）」、NHK-FM「邦楽のひととき」
- * 2013.12.14 常磐津節「女鳴神」、NHK-FM「邦楽百番」
- * 2014.01 常磐津節・歌舞伎「心中翌の噂」、坂東玉三郎特別舞踊公演、大阪松竹座
- * 2014.02.14 常磐津節「神楽謡雲井曲毬」、常磐津節保存会講習会、京都芸術センター

◆委員・役職等

- * 文化庁 平成25年度（第64回）芸術選奨推薦委員
- * 滋賀県 平成25年度滋賀県邦楽・邦舞専門実演家養成所邦楽部門オーディション審査員
- * 京都市 五感で感じる和の文化事業検討委員会委員
- * フェニックス・エヴォリューション・シリーズ選考アドバイザー
- * （一社）関西常磐津協会広報部員

〈学内〉

- * 広報委員会委員、情報管理委員会委員、施設整備に関する会議作業部会メンバー、機関リポジトリ学内ワーキングメンバー

◆所属学会等

- * （一社）東洋音楽学会、楽劇学会、近世文学会、藝能史研究会、歌舞伎学会、国際浮世絵学会、洋学史研究会
- * （一社）関西常磐津協会、常磐津協会

藤田 隆則

◆著作活動

- * 2013.08 巻頭言「音楽伝承の「発酵」過程」日本音楽学会西日本支部『支部通信』（電子媒体）第5号（通巻105号）（2013年8月25日）、p.4
- * 2013.09 研究発表のレポート「畑智子：フィンランドの民族楽器「カンテレ」とその旋律の伝承（東洋音楽学会西日本支部第261回定例研究会）『東洋音楽学会西日本支部だより』第76号（2013年9月25日）、pp.10-11
- * 2013.11（編著）『西浦田楽—伝承の現在と未来』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催第36回（平成25年度第1回）公開講座当日（2013年11月9日）配布パンフレット、全24p（このうち単著エッセイ「開催の趣旨」（p.1）、「西浦田楽の概要」（pp.10-16）、「演目解説—演出・歌詞・旋律型」（pp.17-24）を執筆）
- * 2014.02 巻頭言「2014年九州大会、2016年IFYM、2017年IMS」日本音楽学会西日本支部『支部通信』（電子媒体）第6号（通巻106号）（2014年2月28日）、p.2

◆口述活動

- * 2013.06.06 音源内容解説「宝生流の謡をきく」（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター前期セミナー（伝音セミナー）第2回）京都市：京都市立芸術大学
- * 2013.06.22 講演へのコメント「守屋治次：田楽を舞って45年、へのコメント」京都人類学研究会、文化人類学講座20周年記念講演会第3回（2013年6月22日）、京都市：京都大学総合人間学部
- * 2013.07.15 講義「日本文化の様々な特徴」Kyoto Consortium for Japanese Studies (KCJS)、（平成25年7月15日）、京都：同志社大学扶桑館
- * 2013.07.24 解説「能楽部自演会」京都市立芸術大学能楽部自演会（平成25年7月24日）、京都：京都市立大学講堂
- * 2013.09.19 講演「日本の演劇（能、文楽、歌舞伎）を物語の語り方という観点から比較する」（日

- 本語での講演、ロシア語への通訳：Victor Mazurik)、ロシア（モスクワ）：チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院
- * 2013.09.20 講演「能における音楽的特徴」(日本語での講演、ロシア語への通訳：Victor Mazurik) (平成 25 年 9 月 20 日)、ロシア（モスクワ）：チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院
 - * 2013.09.21 講演「日本における仏教音楽の伝承の特徴とその楽譜」(日本語での講演、ロシア語への通訳：Victor Mazurik) (平成 25 年 9 月 21 日)、ロシア（モスクワ）：チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院
 - * 2013.09.22 Lecture, 'Sound Aspects of Noh Theater' (日本語 / 英語での講演、ロシア語への通訳：Natalia Klobukova) (平成 25 年 9 月 22 日)、ロシア（サンクトペテルスブルク）：ロシア連邦文化局
 - * 2013.10 月 -11 月 (毎週水曜日、全 8 回) 講義「でんおん連続講座 C 能の音楽の原型をさぐる—他のジャンルとの比較や演出資料を通じて」25 年度後期 京都市：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
 - * 2013.10.13 司会担当「日本伝統音楽特別講座」京都市立芸術大学音楽学部オープンスクール、京都市：京都市立芸術大学
 - * 2013.10.13 ワークショップ担当「能の謡のポリリズム (複リズム) —〈鶴〉キリを例に」平成 25 年度「伝統音楽普及促進事業」、平成 25 年 10 月 13 日、京都市：河村能舞台
 - * 2013.10.27 研究発表「能・語り物・浪曲に潜む共通性」日本伝統音楽研究センター共同研究「浪花節の音楽様式を見極める」(研究代表者：トキタ・アリソン)、平成 25 年 10 月 27 日研究会、京都市：京都市立芸術大学
 - * 2013.11.09 司会担当「西浦田楽—伝承の現在と未来」、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催平成 25 年度第 1 回公開講座 (通算第 36 回)、京都市：京都芸術センター
 - * 2013.11.28 司会と講演「日本人・しぐさの遺伝子—能で気づく文化アイデンティティ」愛知大

- 学桜 21 プロジェクト(平成 25 年 11 月 28 日)、名古屋市：愛知大学コンベンションホール
- * 2013.12.27 Lecture, 'Primacy of Corporeality in the Transmission of Japanese Traditional Music,' Taipei, Taiwan: Graduate Institute of Musicology, National Taiwan University (講演：日本の伝統音楽の伝承における身体の第一位性、国立臺灣大學音樂學研究所)
 - * 2014.02.16 講演「京観世 (きょうかんぜ) —謡の文化」京都の大学による特別講座 (テーマ「京都創世」、京あるき in 東京) (平成 26 年 2 月 16 日)、東京：京都造形芸術大学・東北芸術工科大学外苑キャンパス
 - * 2014.02.26 講義「能楽の謡、笛、太鼓」Kyoto Consortium for Japanese Studies (KCJS)、(平成 26 年 2 月 26 日)、京都：同志社大学扶桑館
 - * 2014.03.15 学会発表「話題提供：素人のオーセンティシティー：能楽からみる日本、アジアの音楽実践」日本音楽学会西日本支部第 18 回 (通算 369 回) 例会、(平成 26 年 2 月 15 日)、東広島：広島大学総合科学部
- ◆プロデュース活動
- * 2013.11.09 「西浦田楽—伝承の現在と未来」、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催平成 25 年度第 1 回公開講座 (通算第 36 回)、京都市：京都芸術センター
 - * 2013.10 月 -11 月 (毎週水曜日、全 8 回)「でんおん連続講座 D 謡を楽しむ文化-京観世とその周辺」25 年度後期 京都市：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
 - * 2013.11.28 「日本人・しぐさの遺伝子—能で気づく文化アイデンティティ」愛知大学学桜 21 プロジェクト (平成 25 年 11 月 28 日)、名古屋市：愛知大学コンベンションホール
- ◆調査・取材活動
- * 継続中 謡曲・能の囃子の伝承にかかわる調査
- ◆学内活動
- * 国際交流委員会委員
 - * 学術交流推進委員会委員
 - * 京都市立芸術大学アーカイバルリサーチセンター

準備委員会委員

- * 京都市立芸術大学大学院音楽研究科日本音楽研究専攻他の授業担当

◆対外活動

- * 日本音楽学会西日本支部委員（および西日本支部事務局担当）
- * 神戸女学院大学音楽学部非常勤講師（2013.09-2014.03）
- * 滋賀大学教育学部非常勤講師（2013.04-2013.09）
- * 所属学会 日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会、能楽学会、音楽教育学会、芸能史研究会、International Council for Traditional Music、Society for Ethnomusicology

山田 智恵子

◆著作活動

- * 2013.12.10 邦楽家アンケートの分析「諦めと希望がない交ぜに」「特集われらにとっての邦楽 - 誰が邦楽を変えたのか」『上方芸能』190号、p40
- * 2014.01.25 公開講座プログラム編集 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター第37回公開講座（平成25年度第2回）「浪曲の音楽性について考える」プログラム

◆口述活動

- * 2013.5月～7月（毎週水曜日、全10回）講義「でんおん連続講座A 義太夫節の音楽としてのしくみを理解する」平成25年度前期 京都市：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- * 2013.10.03 音源内容解説「義太夫節の節尽しを聴く I」京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター平成25年度第5回伝音セミナー
- * 2013年前期15回 講義「音楽学特講h・音楽学特殊研究h」京都市立芸術大学音楽学部・大学院音楽研究科

◆プロデュース活動

- * 2013.07.20 東洋音楽学会西日本支部第261回定例研究会 企画司会担当。京都市立芸術大学新研究棟日本伝統音楽研究センター合同研究室1
- * 2014.01.25 日本伝統音楽研究センター第37回公開講座（平成25年度第2回）「浪曲の音楽性について考える」（時田アリソン客員教授企画構成）、制作司会担当。京都市立京都堀川音楽高等学校音楽ホール。

◆調査・取材活動

- * 義太夫節の朱入り浄瑠璃本の調査（日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B) 課題番号24320042「人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎的研究」研究代表者）
- * 淡路・阿波・大阪における義太夫節伝承の実態調査（早稲田大学演劇映像学連携研究拠点平成25年度公募研究「人形浄瑠璃の現有曲目に関する資料学的研究 淡路・阿波・大阪の伝承を中心に」研究分担者）

◆学内活動

- * 京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師（2013.04～2014.03）
- * 京都市立芸術大学大学院音楽研究科兼任
- * 京都市立芸術大学教育研究審議会委員
- * 京都市立芸術大学学生委員会委員・ギャラリー@kcua 運営委員会委員・キャンパスハラスメント防止対策委員会委員

◆対外活動

- * 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（2013.6.6-11.30）
- * 公益財団法人文楽協会評議員
- * 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者（文楽・義太夫節）養成研修講師
- * 一般社団法人東洋音楽学会支部委員
- * 清元協会会員

◆所属学会

- * 日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会